

ぺりかん社

歴史学研究会 2022 年度大会 (オンライン)

《特別販売のご案内》

歴史学研究会会員様を対象に期間限定で小社商品を特別価格にて販売いたします。

販売期間 : 2022 年 5 月～ 7 月末

販売価格 : 全品 2 割引

送料 : 厚さ 3cm・重さ 1kg 以内=440 円 (ゆうパケット)

上記より大きいサイズ・重量=990 円 (宅配便)

ご注文方法 :

7 ページ目の「購入申込書」もしくは下記必要事項を明記の上、FAX、メール、お電話にて小社へ直接ご注文ください。

- ① 書名・冊数
- ② 公費・私費の区分
- ③ お名前・ご住所 (お届け先)・お電話番号
- ④ 見積・納品・請求書の要・不要、請求書の宛名、日付の記載
- ⑤ 歴史学研究会 会員であること

お支払い : 商品に同梱される郵便払込用紙にてご入金ください (後払い)。

【申込先】

株式会社 ぺりかん社 営業部

TEL : 03-3814-8515 FAX : 03-3814-3264

MAIL : eigyo@perikansha.co.jp

〒113-0033 東京都文京区本郷 1 - 2 8 - 3 6

清水則夫
三浦國雄
監修

二〇二三年二月刊行



浅見綱齋全集稿本

舞田敦編

二五〇年以上に及ぶ山崎闇齋学派の学統の証——明治〜大正時代に
に崎門三傑の一人・浅見綱齋の遺著を整理して集大成しながら、
一〇〇年以上も秘蔵されてきた幻の全集の待望の公刊。

ぺりかん社

浅見綱齋

あさみけいさい 承応元年—正徳元年（六五二—一七二一）

江戸時代中期の朱子学者。近江国高島に生まれる。京都で医業に就き、後に山崎闇齋に入門。佐藤直方、三宅尚齋とともに崎門三傑の一人に数えられる。垂加神道に傾斜した闇齋に異を唱え破門となるが、闇齋没後、闇齋学への復帰と継承を目指し開塾、若林強齋や山本復齋など優れた門人を輩出した。主著『靖献遺言』は幕末の勤王運動に多大な影響を与えた。

闇齋学派の思想家は概して著作の出版には熱意を示さず、綱齋の資料もその大半は未だに公刊されずに膨大な量の写本資料が全国各地の図書館などに点在している。そうした資料は閲覧・利用に大きな制限があり、このことが綱齋の全体像を把握することを困難にしている。

舞田 敦

またあつし 文久元年—大正十一年（八六一—一九二一）

長州の松本村（現山口県萩市）に生まれる。幼少期から漢籍の素読を受け、また松下村塾で玉木文之進らの教えを受けた。明治九年、萩の乱に加わり、刑死を免れるも萩を追放される。東京の電信修技校に入学し、卒業後の明治十三年に官吏として桑名に赴任、同地で秋山罷齋の門下となり崎門学を学ぶ。

明治二十三年、私淑していた綱齋の全集編纂を志す。翌年、道学協会の『道



学遺書』発刊、盟友・吉田英厚と『桑名前修遺書』の刊行などを手掛け、同二十八年より任地で私塾・脱然書院を創設して講学・教育に努めた。大正二年、浅見綱齋先生遺著編纂会が設立され、本格的に『全集』の編纂を開始、二年後に一応の完成を見る。大正十一年、小石川の自宅にて死去。

【本稿本の概要】

●本稿本は浅見綱齋先生遺著編纂会の中心を担った舞田敦により編纂された『綱齋先生全集』全六十冊（大正四年に完成・未公刊）の「影印」と、監修者による詳細な「解題」で構成される。

※『綱齋先生全集』は平成二十四年、舞田家より大東文化大学図書館に寄贈された。

●『綱齋先生全集』は各資料の底本の明記、異本との校勘、末には舞田自身の識語も記されるなど、手続き上、現在の書誌学的観点からしても全集と呼ぶにふさわしいものであるが、いくつかの問題点も含まれる。今回の出版にあたり、この全集を将来「正確な校本を提供」する足掛かりとすべく、全集に残る問題を洗い出し、現存諸本の情報を整理することを目指した。

●本稿本の最大の特徴は、講義筆記の充実にある。先行する遺文集の類と比較しても、これほどの量を集めたものはなく、本稿本所収本が現存唯一の写本という資料も複数含まれる。そうした貴重な資料の収録に加え、これほどの量を一つにまとめた網羅性こそが、最大の価値といえる。

三浦國雄「跋」より

浅見綱齋はこれまで、その著『靖献遺言』を中心に大義名分や尊皇論、それにナシヨナリズムといった観点から語られてきた。そういう論じ方は、実は綱齋思想の一面的な把握または誇張であることが近年明らかにされつつある。……綱齋に私淑していた舞田敦は、綱齋のなかに最もまっとうな儒学精神を見出して共鳴したからこそ、その全集の編纂と出版という難事業を思い立ったのであろう。敦は「浅見綱齋先生遺著編纂会」の名に托し、「近歳学術多岐ニ涉リテ聖道漸ク隱晦シ、世風智巧ヲ競フテ人心軽浮ニ趨ル。特ニ大義名分ノ学ニ至リテハ幾ンド昏昧弊塞ス……」と述べるように、彼自身の綱齋理解も旧套を出るものではなかったかもしれない。しかし彼は、「大義名分ノ学」の抜粋集ではなく、前人未踏の全集編纂を成し遂げ、さらに続編まで構想していた。……敦が全集編纂に志したのが明治二十三年（二八九〇）、一応の完成を見たのが大正四年（一九一五）のことであるから、本書が日の目を見るまで百年に余る歳月が流れたことになる。

一本情文俱文

已言樂正次以雅頌得所則雅頌何不與樂相關而各為一項事也集註言詩樂者言之順也若謂之樂詩則猶言是樂之詩云爾却詩字為主謂詩樂則詩也樂也各為一軍也而言之情文表裡未嘗見其為各別焉且錢氏言樂失次言詩是亦恐未當皆分詩樂為恰好之誤也錢氏言其開失次言其冊曰詩曰樂皆然而直言樂則自兼在於其中也

出則事公卿章

此章莫高妙奇特艱難幽微之說唯宜味平談

絅齋先生全集

遺著編纂會

親切不下帶而道存焉之意集註愈身愈切最切密蓋人之切近平實若飲食衣服不可得而離其最易忽者莫若此焉乃存養實事深體可見譬之語行路者不望其闊步疾足而惟丁寧告語以其勿躐勿僵夫才有足而行者誰不知其不躐不僵之可戒但少有慢易之萌乃其顛倒傷折矣猶何望其闊步疾足哉學者深省焉或問無他語類凡三條最可見集註愈早愈切之旨說得極卑而說得極長最宜玩味南軒最親切

子在川上章

一本無息是字

一本有偶爾感發自無一妙馬十字伏不覺識聖言之微若不能錄矣十二年一本四者俱佳者一本無也字

此章本非發明道體以告學者因川流以發示道體之不息以欲學者自勉不已也然即其語味之則高下淺深細大上下道體無窮無息之妙自無遺矣夫抵聖人之言皆如此而此章最意味深長氣象從容有不可以言語喻者且子在川上曰五字此非文義難解而有偶爾感發自然之妙焉逝字有一佳不返無窮之意逝者指全體如斯指川流不可以如字為譬喻之字川流即道體之一而其特著者猶中庸指鳶飛魚躍也夫者如疑而歎辭舍猶委置之意言水之流行無舍一時一息之間

絅齋先生全集

遺著編纂會

正據水而言不可言水無止時也音義合上聲可見不念晝夜文意最宜審諸意若曰水能自無間斷你輟無亦舍晝夜而不流之時也乃是水自強不息矣夫水之流行乃道體之自然何容自強但在彼則自然而自吾觀之即見其晝夜流行健往大力量度體段實功也此只得于言意之表可也若但謂水流不止而已矣則何不曰晝夜不止而必曰不舍晝夜便見指示學者欲時時有察而無一毫間斷之意自著明深切矣集註化字便見從來變化不息之意指字最切不可漫看天地之化

一本卷下有之一字

清水則夫・三浦國雄 監修

【二〇二二年二月刊行】

浅見綱齋全集稿本 舞田敦編

■B5判上製／上・中・下巻セット函入／各巻平均七二二頁
セット定価九九、〇〇〇円（本体九〇、〇〇〇円＋税・分売不可）

ISBN978-4-8315-1605-3

発行・発売 ぺりかん社

各巻収録内容・目次

上巻（七三三頁）

舞田敦編『浅見綱齋全集稿本』解題（清水則夫）

大東文化大学図書館蔵『綱齋先生全集』について

付表『綱齋先生全集』目録

各冊解題

綱齋先生全集上

一（凡例／目録／表／年譜略／実紀）

二（文集一）

三（文集二）

四（文集三）

五（手簡）

六（箚録上）

七（箚録下）

八（答問）

九（語録）

十（靖

献遺言一～四）

十一（靖献遺言五～六）

十二（靖献遺言七～八）

十三（靖献遺言講

義／靖献遺言附講）

十四（忠孝類説／赤城忠士筆記／赤穂四十六人辨

十五（氏族辨證

／氏族辨證附録）

十六（聖学図講義／白鹿洞書院掲示集註講義）

十七（大家商量集講義）

十八（玉山講義師説）

十九（拘幽操師説）

二十（雜講義）

二十一（雜

筆記）

二十二（小

学雜説）

二十三（大

中巻（六七七頁）

綱齋先生全集 中

十七（大家商量集講義）

十八（玉山講義師説）

十九（拘幽操師説）

二十（雜講義）

二十一（雜

筆記）

二十二（小

学雜説）

二十三（大

学雜説）

二十四（大

学雜説）

二十五（大

学雜説）

二十六（大

学雜説）

二十七（大

学雜説）

二十八（大

学雜説）

下巻（七二七頁）

綱齋先生全集 下

四十（性理字義講義上）

四十二（性理字義講義下）

四十三（西銘參

考／西銘考説／薛氏西銘諸説）

四十四（程子論性諸説／程子論性諸説）

四十五（敬義内外

説／敬義内外説師説）

四十六（四箴附考／四箴附考師説）

四十七（易学啓蒙講義一）

四十八（易学啓蒙講義二） 四十九（易学啓蒙講義三） 五十（易学講習別録／易学啓蒙序師説／易学啓蒙序講義略） 五十一（啓蒙補要解師説） 五十二（朱易衍義講義） 五十三（卦象諸説／卦象集説） 五十四（増補易説備考） 五十五（易学雜説） 五十六（洪範師説） 五十七（感興考註講義上） 五十八（感興考註講義下） 五十九（喪祭小記／喪祭略記） 六十（諸図）

購入申し込み

セット

お名前・ご連絡先

ご注文は最寄りの書店をご利用ください

書店使用欄

【凡例】

本全集稿本は、上巻・中巻・下巻の三巻本である。各巻の構成は、上巻が「舞田敦編『浅見綱齋全集稿本』解題」（清水則夫執筆）と「綱齋先生全集上」（影印・第一冊～第十六冊）、中巻が「綱齋先生全集 中」（影印・第十七冊～第四十冊）、下巻が「綱齋先生全集 下」（影印・第四十一冊～第六十冊）と「跋」（三浦國雄執筆）である。

「解題について」

収録された各著作について、内容の概略、講義筆記の場合は筆録者、成立時期、敦が依拠した底本、現存する他の伝本を記した。ただし国文学研究資料館『日本古典籍総合目録』によって検索可能なものは、原則的に省略した。

すでに翻刻や影印があるものについては、漏らさず記載するように努めた。また過去に作成された綱齋の遺文集に収録されているものも、明記するようにした。

全集所収の各著作の判読困難な箇所、あるいは著しく影響を及ぼすような脱文などに関しては【補記】という形で補った。その際に依拠したテキストは、すべて明記してある。

【監修者略歴】

清水則夫（しみずのりお）

一九七五年栃木県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（文学）。明治大学理工学部准教授。近世日本思想史専攻。論文「十八世紀前半の朱子学者について——徂徠以後の朱子学者」（『土田健次郎教授退職記念論集朱子学とその展開』汲古書院）、「浅見綱齋の「大義名分」の再検討」（『日本思想史学』四八号）

三浦國雄（みうらくにお）

一九四一年大阪市生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程（中国哲学史）中途退学。文学博士（大阪市立大学）。大阪市立大学名誉教授。中国思想史・東アジア比較文化論専攻。主著『朱子と氣と身体』（平凡社）、「不老不死の欲求——三浦國雄道論集」（四川人民出版社）

ぺりかん社

ぺりかん社 刊行案内 2022年5月

〒113-0033
東京都文京区本郷 1-28-36
電話 03-3814-8515
FAX 03-3814-3264

歴史で読む国学

分野：日本思想・歴史



國學院大學日本文化研究所 編

日本社会が大きく変動した近世という時代に登場し、近代というさらなる激動期に洗練と制度化を経た国学思想の内実と方法を現代にいたるまで通史として叙述し、混沌と通説の狭間にあるその可能性を追求した新しい入門書。

四六判並製/304頁/定価：本体2200円+税
ISBN978-4-8315-1611-4 2022年3月刊

【主要目次】

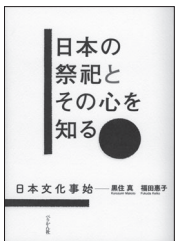
1 元禄期 徳川光圀と契沖 / 2 宝永～享保期 荷田春満の活動を中心に / 3 元文～延享期 荷田在満・賀茂真淵の時代 / 4 宝暦・明和期 賀茂真淵と本居宣長 / 5 安永・天明期 多様化する国学 / 6 寛政期 復古の諸相 / 7 享和～文政期 宣長学の継承と平田篤胤の登場 / 8 天保期～ペリー来航 本居門・平田門と草莽の国学 / 9 ペリー来航後～慶応三年 平田派・本居派の動向と尊攘運動 / 10 明治元年～明治八年 明治新政府と国学者 / 11 明治八年～明治二十三年 「明治国学」の成立 / 12 明治中期～昭和二十年代 「新国学」の提唱 / 13 明治後期～現在 「国学」研究の近現代史

【執筆著者・50音順】一戸 渉・遠藤 潤・小田真裕・木村悠之介・齋藤公太・武田幸也・間芝志保・古畑侑亮・松本久史・三ツ松誠

日本の祭祀とその心を知る

分野：日本文化・思想・宗教

日本文化事始



黒住 真 [東京大学名誉教授]・
福田恵子 [拓殖大学教授] 著

慣習や伝統行事など生活のなかで営まれる「祭祀」について、歴史をさかのぼってその思想と「かたち」をとらえ、現代の社会についても検討する日本文化入門。索引、関連年表等を付す。

四六判並製/256頁/定価：本体2000円+税
ISBN978-4-8315-1604-6 2021年12月刊

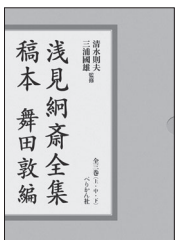
【主要目次】

1 カミさらに神とは カミの定義/歴史的背景によるカミの変遷
2 祭りと祀る 祭祀を遡る/律令制での祭祀/祭りの構造
3 心と言葉 心のとらえ方/心はどこから来たのか
4 習合と信ずる軌跡 習合宗教への道/古代を遡っての言葉と祭祀
5 天と地と人 天のとらえ方の変遷/天と神の関係/天と地と仏教
6 道徳と人間 育まれる道徳の心/宗教と戒律/近代社会と道徳
7 死とは何か、生とは何か 死生・来世からの人間の営みと儀式
8 絆をめぐって 講の活動/絆をめぐる物語/大きなつながり
9 女性とジェンダー 女性の思想的位置づけ/女性の連帯
10 人間の対立と宗教 宗教間の対立/対立から歩み寄る方向へ
11 和のかたちと日本 神霊をともなった和/近世以後の社会統合と和

浅見綱齋全集稿本 舞田敦編

分野：日本思想

上・中・下巻セット



清水則夫・三浦國雄 監修

【影印と解題】山崎闇齋学派の学統の証として、崎門三傑の一人・浅見綱齋の遺著を明治～大正時代にかけて日本全国隈なく渉猟・整理し、集大成しながら百年以上も秘蔵されてきた幻の全集の待望の公刊。*呈内容見本

B5判3冊函入/総2136頁/定価：本体90000円+税
ISBN978-4-8315-1605-3 2022年2月刊

日本思想史学 第53号

分野：思想史 特集：日本思想史学から見る近現代の天皇(2020年度大会シンポジウム)



日本思想史学会 編・発行

執筆=[特集:日本思想史学から見る近現代の天皇]尾原宏之/河西秀哉/黒川伊織/小平美香/昆野伸幸/米谷匡史/[特別掲載]上野太祐ほか/[提言]島蘭進/[論文]中川優子/韓淑婷/青野誠/ロバート・クラフト/佐々木政文ほか

A 5判並製/196頁/定価：本体3000円+税
ISBN978-4-8315-1601-5 2021年9月刊

語られ続ける一休像

分野：宗教史・禅文化

戦後思想史からみる禅文化の諸相



飯島孝良 [花園大学国際禅学研究所専任講師] 著

室町時代を生きた禅僧・一休宗純の実証研究と、前田利謙、芳賀幸四郎、市川白弦、柳田聖山ら禅を修めた近代知識人が語る一休〈像〉の変遷をつなぎ、戦後思想史の一段面を照らす。

A 5判上製/384頁/定価：本体5800円+税
ISBN978-4-8315-1594-0 2021年7月刊

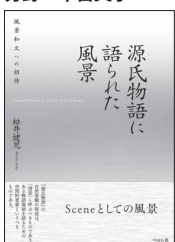
【主要目次】

序 一休の〈像〉は如何に形成されてきたか 一休宗純の生涯/一休〈像〉の形成過程/一休〈像〉という媒介を通して何が語られたのか
1 一休像の近代的「発見」—前田利謙の「禅」を手がかりに 前田利謙の立場と問題意識/「一所不住の徒」一休への眼
2 戦後日本における中世禅文化論と一休の像—芳賀幸四郎を中心に 芳賀幸四郎の着眼/「東山文化」論と一休の像
3 市川白弦の一休像—「即」の論理的批判的継承として 市川における問題意識/「即」の論理と「風流」
4 二十世紀の「禅学」と一休像—柳田聖山の視座を再考する 柳田の一休解釈/ふたつの「禅学」/「禅」そのものへの回帰 補「瞎驢辺滅却」をめぐって—一休と臨済禅への研究覚書 終 禅門と世俗と一休の像—論のむすびとひらき

源氏物語に語られた風景

分野：中古文学

風景和文への招待



松井健児 [駒澤大学教授] 著

『源氏物語』の自然景観の叙述は、「情景」と呼ぶべきものであり、ある物語場面を語るための空間的要素というべきものである。近代的な創作主体である作者による描写から離脱し、古代後期の物語の特質を俯瞰する。

A 5判上製/264頁/定価：本体4500円+税
ISBN978-4-8315-1610-7 2022年5月刊

八犬伝をみちびく糸

分野：近世文学・思想

馬琴と近世の思考



西田耕三 [元近畿大学教授] 著

「南総里見八犬伝」創作の根本思想というべき馬琴が理想とした倫理や、小説を自立させるための工夫、小説を書くための技法・作法など、中国の史書や儒教・仏教などの古今の文献を引用しつつ縦横に読み解く。

四六判上製/336頁/定価：本体3600円+税
ISBN978-4-8315-1595-7 2021年10月刊

2022年 月 日(歴史学研究会)

書名	冊
書名	冊
書名	冊
書名	冊
書名	冊
書名	冊
書名	冊
書名	冊
書名	冊
書名	冊
書名	冊
書名	冊

..... 上記書籍を[私費 ・ 公費]で申し込みます。 合計: 冊

お名前 ふりがな	所属学会 歴史学研究会
ご住所 〒	勤務先
Tel.	
E-mail	

●公費の場合● (必ずご記入下さい)

請求書お宛名: 様宛	必要書類: 見積書 ・ 納品書 ・ 請求書 その他()
	請求日の記載 : 要 ・ 不要

ペリかん社 営業部 Tel.03-3814-8515/Fax.03-3814-3264